

首都直下型地震

「2025年問題」

人口減少

近未来を視野に様々なテーマをシェア

■著者略歴

長竹 孝夫

1953年、栃木県佐野市生まれ。

獨協大学外国語学部ドイツ語学科卒業。中日新聞社（東京新聞）入社。取材記者として浦和支局（現さいたま支局）を振り出しに東京本社社会部へ。警視庁クラブで東芝機械コム違反事件、東京都庁クラブ（通算7年間）で鈴木都政、青島都政などウオッチ。環境庁（省）記者クラブ時代にブラジル・リオデジャネイロで開かれた「国連環境開発会議」（通称・地球サミット）取材。

その後、特別報道部、前橋支局長、社会部次長兼論説委員（総務省、石原都政など担当）、校閲部長などを経て編集局編集委員として7年間、首都圏オピニオンコーナー担当。2018年12月退職。日本記者クラブ会報委員（2019年7月～21年6月）。この間、東京都・都営住宅高額所得審査会委員（4期8年）、首都大学東京（現・東京都立大学）オープンユニバーシティ講師、獨協大学経済学部特別講座講師など歴任。

<現在>ジャーナリスト（自治問題）兼 非常勤職員。

編著『無党派知事の光と影 激動の青島都政追跡』（東京新聞出版局）、共著『埼玉事始』（さきたま出版会）。

■「はじめに」より（抜粋）

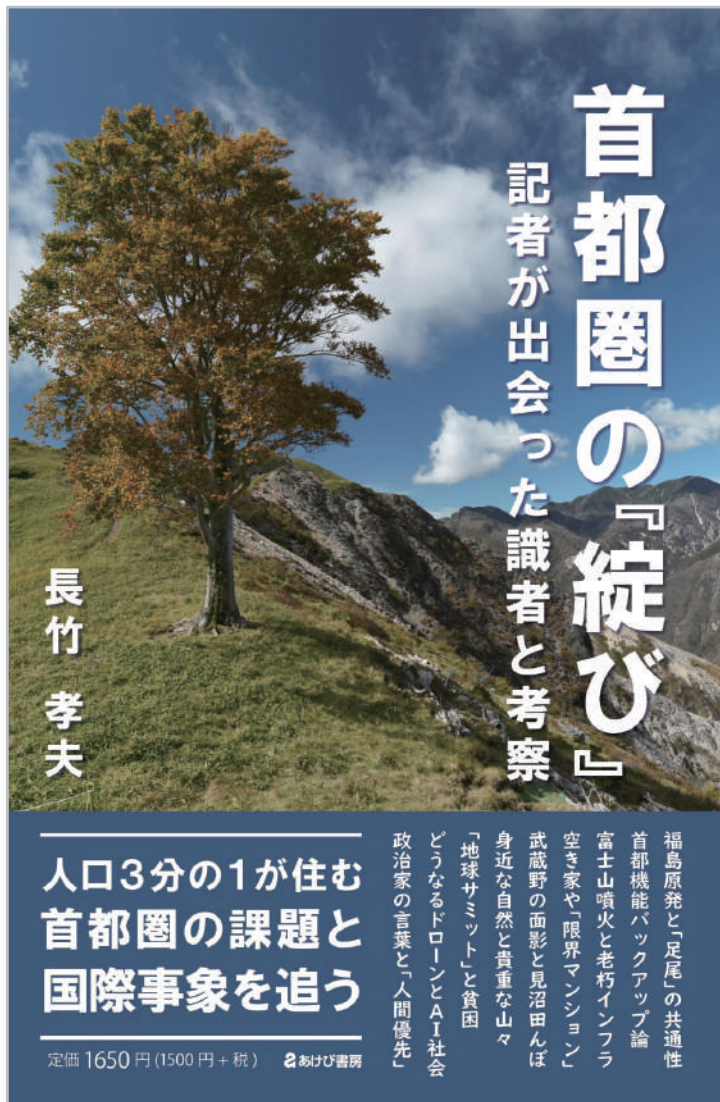
「一度しかない一生」「生まれてきたかいがあった」と思える社会環境をイメージし、識者らの貴重な意見と社会の論点を整理。「首都圏の綻び」と題して、各種テーマを考察した。これを機に「国際的事象」などにも触れた。綻び（ふ）とは、「梅の花が綻ぶ季節」とか「子の愛らしい姿に自然と顔が綻ぶ」といった言い回しがある一方で、縫い目がほどける、つまり「物事に変化が起これ、整合性が無くなること」の意味合いがある。首都圏で特に「整合性のなさ」を感じる。

本書は、自治問題などに取り組む大学生や市民グループのほか、企業や自治体職員、議員…等々。分野別では公害、環境・エネルギーのほか、福祉、教育、暮らし、医療、健康、自然保護などに関心のある方々にお読みいただき、少しでも身近な課題を「共有」していただけたら光栄である。



■もくじ

- 第1章 原発事故と鉛毒事件の共通性
- 第2章 東日本大震災（3・11）の教訓
- 第3章 大災害の備え・老朽インフラ
- 第4章 暮らし・街づくり・自治体
- 第5章 子ども・高齢者・介護
- 第6章 社会・健康・医療の今
- 第7章 身近で貴重な自然と山々
- 第8章 近未来に向けた「視点」
- 第9章 国際的事象と政治家の言葉



人口3分の1が住む
首都圏の課題と
国際事象を追う

定価 1650円 (1500円+税) あけび書房

福島原発と「足尾」の共通性
首都機能バックアップ論
富士山噴火と老朽インフラ
空き家や「限界マンション」
武蔵野の面影と見沼田んぼ
身近な自然と貴重な山々
「地球サミット」と貧困
どうなるドローンとAI社会
政治家の言葉と「人間優先」

定価 1650円 (本体 1500円+税 10%)

2022年9月 発売 46判並製182頁
ISBN978-4-87154-219-7 C3036

あけび書房

TEL: 03-5888-4142
FAX: 03-5888-4448

〒167-0054 東京都杉並区松庵3-39-13-103
https://akebishobo.com/ Mail: info@akebishobo.com



----- キリトリ線 ✂ -----
ご購入の上、最寄りの書店、あるいはあけび書房へご注文下さい。

注文書	書店印・取扱先	<h1>首都圏の綻び</h1>		() 冊 注文
		その他・備考		
	氏名・団体名	ご担当者 氏名		
	送り先 〒() - ()	電話番号 ()		

取次帖合：日販・トーハン・楽天ブックスネットワーク・中央社・大学図書
日教販・全官報・新日本図書・鎌谷書店・JRC

発行：あけび書房 TEL.03-5888-4142 FAX.03-5888-4448